

NEJM 勉強会 2013 年度 第 5 回 2013 年 5 月 15 日 A プリント 担当：久世崇史
Case 34-2012: A 27-Year-Old Woman in Ethiopia with Severe Pain, Bleeding, and Shock during Labor
(New England Journal of Medicine 2012 Nov 8;367:1839-45)

【患者】 27 歳女性

【主訴】 腹痛

【現病歴】

3 回経妊，2 回経産の女性。生来健康であり，今回の妊娠に際し妊娠第 20 週から近医にて計 4 回の妊婦健診を受けていた。

入院数日前，正期産にて陣痛が出現し自宅に助産師が呼ばれていた。

入院の 24 時間ほど前から自発的にいきみを開始。入院 3 時間前に突然強い痛みが腹部に出現し臍から出血が見られた。また陣痛が徐々に持続しない不規則なものになったため，病院に搬送することになった。約 2 時間後，エチオピアのメケレ大学附属病院に到着。

【既往歴】

自宅で助産師なしに 2 回の経臍分娩を経験。5 年前に 2800g の児を分娩。3 年前に死産（死因は不明）。

他に特記すべき既往歴，手術歴なし。女性器切除なし。

【生活歴】

中心地から離れた北エチオピアの地方に夫と子供の 3 人暮らし。夫に付き添われて来院。

【家族歴】

特記すべき事項なし。

【アレルギー歴】

特記すべき事項なし。

【入院時所見】

意識は清明。衰弱し，顔面蒼白であった。BP 60/30 mmHg、脈拍 112 回/min。口腔粘膜は乾燥し，眼瞼結膜は白色。腹部は不規則に拡張している。胎児成分は触知可能で，胎児心音は聴診不可であった。体位変換現象が見られた。ヘマトクリットの迅速値は 12%。

ここで、ある診断的治療が施行された。

●プロブレムを挙げてください。

●ある診断的治療とは？

●鑑別診断を考えてください。